

平成27年9月市議会定例会より

〜工藤市長の一般行政報告〜

9月15日から18日間の会期で開催された市議会定例会では、初日の一般行政報告をはじめ、9月補正予算の審議などが行われました。
※一般行政報告の一部を要約して掲載しています。
全文は、市ホームページをご覧ください。



地方創生に係る本市の取り組みについて

本市では、地方創生の実現に向けて、現在、「稚内市人口ビジョン」と「稚内市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定作業を進めています。

策定にあたりましては、既に「稚内市地方創生本部」を設置していますが、さらに、市内の各団体等で構成する、「稚内市地方創生市民会議」や、庁内の「プロジェクトチーム会議」において、協議・検討を重ねています。

先日、地方創生本部会議において、主な施策や取り組み、重要業績評価指標であるKPIなどを掲載した「総合戦略」と「人口ビジョン」の原案をまとめ、市民会議において、この原案に関する意見交換を行いました。

合わせて、市内の高校生、大学生による「サロン」を開催し、これから進学や就職を迎える若い世代からの意見をいただいたほか、稚内商工会議所の「地域戦略ビジョン特別委員会」の皆さんと意見交換を行うなど、数多くの意見を総合戦略に反映させていきたいと考えています。

市立稚内病院を支える医療連携協議会について

本市の医療体制は、市立稚内病院の常勤医師の減少を始め、開業医の病気等による診療所の休止等により、厳しさを増していることは御承知のとおりです。

これまでも、市立稚内病院の医師不足解消のため、関係機関と連携した勤務医確保に向けた取り組みはもとより、併行して、開業医誘致活動などを進めてきました。特に開業医につきましては、これまでに3つの診療所が新たに開設した一方、既存診療所の休止・廃止等もあり、市民の皆さんのみならず、開業医の皆さんにとりましても、医療環境が充実しているとは言えません。

サハリンへの物流促進に係る事業について

本市と、サハリン友好都市との関係を強化し、更なる物流促進を図るため、7月下旬から9月上旬にかけて、現地において、各関係会議や物産展などを行ってきました。7月22日にユジノサハリンスク市で開催された「稚内・コルサコフ定期航路利用促進合同会議」では、サハリン側から、コルサコフ港の「ターミナル新設構想」の進捗状況の説明があったほか、稚内・コルサコフ間定期航路の継続へ向けた協力、支援について、稚内、コルサコフ両市で双方の認識が一致し、その上で、物流促進にあたって、ロシア側規制の緩和に向け、サハリン側関係者の協力要請を行いました。

また、「第8回友好都市経済交流会議」では、友好都市である3市の代表者が出席し、水産、農業、建設事業などでの技術協力や、観光振興での連携など、積極的に意見が交わされ、本市からは、これらさまざまな事業を行う上で、具体的事案や、特定分野での協力促進を図るため、当事者間、企業関係者間で「ワーキンググループ」を設けることを、提案しました。物流促進に関する事業としましては、8月29日と30日、ユジノサハリンスク市において、農林水産省主催の「日本食文化週間」事業が開催され、私も参加しました。

このイベントは、今回初めて開催され、ユネスコの無形文化遺産である「和食」をテーマとして、普及、PRを行い、日本食を通じ、農産物の輸出拡大を目指すもので、2日間で招待された約300名の方々が会場を訪れました。



人気を集めたお寿司コーナー

会場では、日本料理の試食や、パネルによる和食文化の紹介などが行われたほか、本市から参加した管理栄養士、山崎世千子さんが、日本食セミナー講師として、調理実演と試食を行い、フランスの良い日本食の魅力を紹介しました。

また、9月4日からの3日間、同じくユジノサハリンスク市で開催された「道北物産展2015」では、道北各市から90点が出品され、延べ1万7千人を超える多くの方々が来場するなど、サハリンでは、安心、安全な「日本の農産品」などに対する評価が高く、物産展に対する地元住民の期待の大きさを再認識させられました。物流を促進する上では、いまだ隘路や課題は多数存在しますが、今後、道北地域が中心となって、しっかりと連携し、物流促進を図ることで、地域経済の活性化につなげていきたいと考えていますし、その手段として、現地でのアンテナショップ開設なども視野に入れて、物流の促進に努めていきます。

災害時における緊急・救援輸送に関する協定について

8月17日、一般社団法人旭川地区トラック協会及び旭川地区トラック協会稚内支部と本市の三者において